

## 富山県砺波市の平野部におけるツキノワグマの出没

白石俊明<sup>1)</sup>・南部久男<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>富山県立山カルデラ砂防博物館 〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂68

<sup>2)</sup>富山市科学博物館 〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

### Occurrence of a Japanese black bear in plain area of Tonami City, Toyama Prefecture, June 2018

Toshiaki Shiraishi<sup>1)</sup> and Hisao Nambu<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Tateyama Caldera Sabo Museum, 68 Ashikuraji-bunazaka, Tateyama-machi, Toyama 930-1405, Japan

<sup>2)</sup>Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama 939-8084, Japan

要約：2018年6月14日に砺波市の庄川左岸側の水田地帯に出没したツキノワグマの聞き取り及び痕跡調査を行った。クマは、午前7時以前に砺波市庄川町五ヶを通過し、午前8時20分頃には直線距離で約3.0 km離れた砺波市鹿島で目撃され、午後2時頃、更に0.2km離れた砺波市荒高屋の民家敷地内で駆除された。クマは庄川右岸側の山塊から移動してきた可能性が考えられる。

#### はじめに

近年の富山県では2004年、2006年、2010年秋にツキノワグマの大量出没が起き、普段は出没しない平地での出没が顕著になることが知られている(富山県, 2005, 2007; 富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク (JBN), 2005; 日本クマネットワーク, 2014)。また、春から夏にかけても、平野部での出没も知られ、2009年7月19日にクマが南砺市役所福野行政センターの玄関のガラスを破って侵入した事例がある(南砺市, 2009)。

2018年6月には庄川左岸の砺波市の平野部の水田地帯でツキノワグマが出没した(北日本新聞, 2018)。平地での出没は人身被害につながり易く(白石ら, 2007)、出没状況を記録しておくことは、今後の被害防除にも役立つと思われ、このクマの出没状況について報告する。

#### 方法

北日本新聞(2018年6月15日付け)によれば、6月14日砺波市庄川町五ヶでクマの足跡があることが確認され、8時20分頃に砺波市鹿島でツキノワグマ1頭が目撃され、午後0時半頃に同市荒高屋の民家に入っていくのが確認され、午後2時頃この民家の木に登ったところを銃器で駆除された。クマは体重43kg、体長107cmで、同市庄川町五ヶで発見された足跡と駆除されたクマのものは一致したとされる。これらの新聞情報を元に、6月15日に同市庄川町五ヶで聞き取りと痕跡調査を行い、8月18日に同市鹿島付近でも聞き取り調査を行った。

## 結果及び考察

### 出没状況

クマは3ヶ所で確認されたが(図1)、その内2ヶ所での聞き取り調査及び痕跡調査について以下に述べる。

#### (1) 砺波市庄川町五ヶ

民家横の水田の所有者からの聞き取りによれば、6月14日午前7時頃に、同水田に植えてあった稲の苗がクマの進行方向に向かって倒れ、道路にクマの足跡を確認したとのことであった。15日の現地調査でも稲の踏み倒しを確認でき、水田の西側のアスファルトの農道にもクマが横切った際の足跡が確認できた(図2 A, 3)。クマはさらに別の水田に入って移動したと考えられる。

#### (2) 砺波市鹿島神社周辺

近くの民家の住人からの聞き取りでは、同民家のご婦人が道路を走っていくクマを民家前から目撃したとのことであった。

### クマの推定される移動経路

砺波市庄川町五ヶから同市鹿島にかけては、水田地帯に民家が散在し、用水が流れる典型的な散居村で、屋敷林のある民家が多い。クマは午前7時以前には砺波市庄川町五ヶを通過し、午前8時20分頃には、直線距離で約3.0km北へ離れた同市鹿島に移動していた。クマは農道や用水路伝いに、あるいは水田を横切り、屋敷林に隠れながら移動したものと考えられる。

最初にクマが出没した砺波市庄川町五ヶは、庄川扇状地の扇頂部やや下流側に位置し、東側の最も近い山塊までは直線距離で約1.3km離れ、途中に庄川が流れる。南の山塊までは直線距離で約2.5kmあり、途中には砺波市庄川地域や南砺市井波地域の市街地や水田があり砺波市庄川町五ヶまで移動してくるには国道156号等の道路を横断する必

要がある。同市庄川町五ヶに進入したクマの由来や移動経路ははっきりと分からないものの、庄川右岸の山塊や庄川河川敷からであれば距離が短く、夜間に山麓から庄川河川敷に移動し、川を渡り、左岸側の放射状に流れる用水路や屋敷林を伝い、扇央部へ移動する事は容易であったと思われる。

### 関係者の対応

聞き取り調査や報道内容(北日本新聞2018年6月15日付け及び当日の地方テレビ局のニュース映像)から、遭遇時の対応、万が一襲撃された時の防御対応についての懸案が明らかになった。午前8時20分頃に目撃されてから午後2時頃に駆除されるまでの間、クマが警戒監視をする人々や取材班に周囲を囲まれながら、水田地帯を移動する様子が報じられた。クマの様子をうかがう人々の装備は不十分で、襲撃された際に有効なヘルメット装着やクマ撃退スプレアの携行がほとんどなされていなかった。

平野部にクマが出た場合は重大な多人数事故になりやすく(米田, 2017; 白石ら, 2007)、興奮しパニック状態のクマが、逃げる方向に多くの人があり、精神的に追い詰められたことで次々に人を襲い10名が負傷した事例もある(乗鞍クマ人身事故調査プロジェクトチーム, 2010)。

今回は幸にも人身事故は発生しなかったが、クマが平地や人の居住地に季節を問わず進入しやすい地理的条件や散居村の集落形態は今後も変わらないであろう。今後このような本来の生息地ではない場所にクマが出没し監視を行なう際には、クマを興奮させないよう取り囲んだりせず、万が一、襲われた際に被害を軽減できるヘルメットや撃退スプレアを身に着ける事、住民・行政機関・報道機関それぞれが的確な対応ができるように準備や訓練をしておく事が必要と考えられる。

## 謝 辞

住民の皆様には現地調査でお世話になった。吉岡翼氏には地図作成でお世話になった。皆様に心より感謝申し上げます。

## 引用文献

米田一彦. 2017. 熊が人を襲うとき. pp.223. つり人社

南砺市. 注意!! クマが福野市街地に出没中!! <<http://www.city.nanto.toyama.jp/cms-sypher/www/info/detail.jsp?id=5710>>2018年12月16日閲覧.

日本クマネットワーク. 2014. 「ツキノワグマおよびヒグマの分布域拡縮の現状把握と軋轢防止および危機個体群回復のための支援事業」報告書.

乗鞍クマ人身事故調査プロジェクトチーム.

2010. 乗鞍岳で発生したツキノワグマによる人身事故の調査報告書. pp.34.

白石俊明・間宮寿頼・内呂由美子・南部久男.

2007. 富県におけるツキノワグマの大量出没年(1953年及び2004年)の人身被害の発生状況. 富山市科学文化センター研究報告, 30:69-75.

富山県. 2005. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定指針(ガイドライン). pp.27+35.

富山県. 2007. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定指針(ガイドライン). pp.93.

富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク(JBN). 2005. 富山県における2004年のツキノワグマの出没状況調査報告書. pp.112+CD.



図1 グーグルアースでみたクマの出没地点

1, 砺波市庄川町五ヶ(足跡、稲踏み倒し); 2, 砺波市鹿島(目撃); 3, 砺波市荒高屋(駆除)。A, 1から最も近い東側山塊(1~A=1.3km)。B, 1から最も近い南側山塊(1~B=2.5km)。



図2 A 砺波市庄川町五ヶのクマの出没場所。中央の水田奥から道路を横切り、右の水田に入った。  
 左は東の庄川側、上が南の井波地域の山塊側。  
 B 砺波市鹿島の出没場所 中央の道路を左に横切る。  
 2018年8月18日撮影。

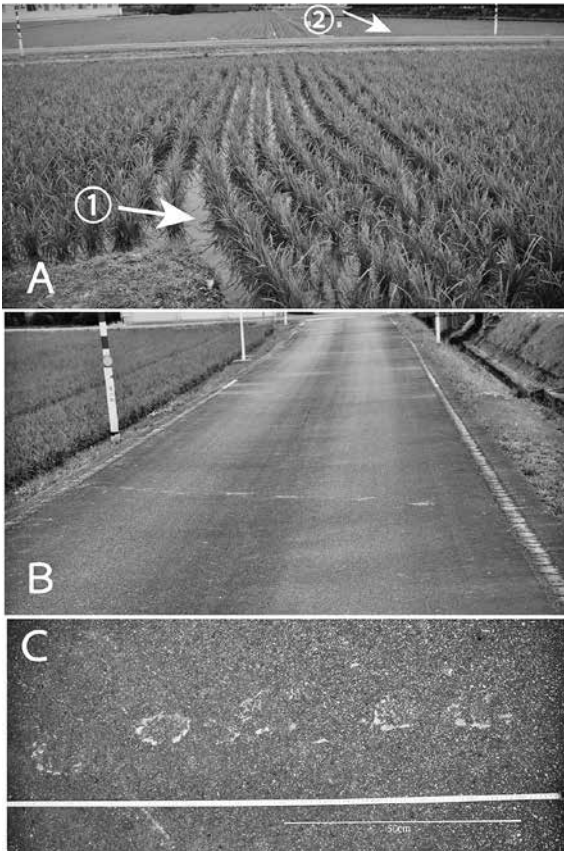


図3 砺波市庄川町五ヶのクマの痕跡。  
 A 水田の踏み跡。  
 ①は踏み跡で、②は道路を横切ったところ。  
 B 道路を横切った際についた足跡。  
 C 足跡の拡大。  
 2018年6月15日撮影。